

児童自立支援プログラム

*普通の児童が、再非行に走らず健全な社会生活を営んでいけるように援助する。「学園でできることは、社会に出てからもできる。学園でできないことは、社会に出てからもできない」

援助過程	インケア		リービングケア		アフターケア	
	中期(非行性の解消)		後期(社会性・基本的習慣の確立)		地域生活定着期	
	初期(自己の課題整理)	児童の内面整理 ⇒ 社会性、基本的生活習慣の確立 ⇒ 対人信頼感、自己肯定感の向上、社会規範の育成⇒ 自立(地域生活)目標の設定				自立(地域生活)の定着
標準援助(在園)期間	0～4ヶ月	4～12ヶ月		12～15ヶ月	15～27ヶ月	
児童の自立目標(児童自立達成水準)	施設の生活に慣れる ○基本的な生活習慣を身につける(生活習慣) ○子ども同士・職員との人間関係を築く(対人関係) ○入園した意味を理解する(内省) ○学園の日課と環境と生活に慣れ、学園で安心して生活できる(感情面) ○挨拶、返事、丁寧な言葉使いを覚える(礼儀)	自分を披露できる／正常な対人関係を保つ／自信と目標を持ち生活する／社会性の確立 ○日課に沿った生活が概ね出来る(生活習慣) ○子ども同士慣れたり、職員の指示を聞けるようになる(対人関係) ○自分の行動を振りかえることができるようになる(内省) ○気持ちを素直に伝えられるようになる(感情面) ○挨拶、返事ができ、丁寧な言葉使いが使える。身だしなみを整える(礼儀) ○親と向き合えるようになる(親子関係)		地域で常態の生活ができる ○日課に沿って、ルールを守った生活ができる(生活習慣) ○心身の健康を管理できる(健康) ○子ども同士仲良く生活できる(対人関係) ○職員の指示を理解を示し、素直な行動が出来る(対人関係) ○不安や困りごとについて職員にポジティブに相談できる(意志表明) ○自分の意志を相手にきちんと伝えられる(意志表明) ○行動の振り返りができ、同じ過ちをしない。(内省) ○怒りや衝動等の感情をコントロールし逸脱行動は概ねなくなる(社会規範/感情面) ○親子で本音で話し合うことができる(親子関係) ○自身の生い立ちや境遇を振り返り、将来に向けた生活目標を設定できる(自己実現)	地域での常態の生活を維持する ○自分の役割(係)を理解し、自主的な生活ができる(生活習慣) ○他者を尊重した生活ができる(対人関係) ○怒りや衝動等の感情をコントロールでき、逸脱行動はなくなる(社会規範/感情面) ○親の考えが理解でき、自身の行動を柔軟に対応出来る(親子関係) ○将来に向けた目標設定に基づいた進路決定を行い、実現に向け努力することができる(自己実現) ○原籍校等と良好な関係を持つことができる(原籍校関係) ○ソーシャルスキルトレーニング、生活マナー習得(自立)	○逸脱行動(非行)のない生活ができる ○家庭・学校・職場で、常態の生活ができる
個別目標の設定	・学園での生活目標の設定	・送りたい地域生活目標「私の目標はこれだ」の設定/自己課題解決目標の設定・評価		・自分の将来像の設定	・自己の生活目標の修正(現実対応)	
評価方法	・自立支援計画票 ・自立支援効果表 ・心理検査	・自立支援計画票 ・自立支援効果表(外出許可証認定会) ・心理検査	・自立支援計画票 ・自立支援効果表(外出許可証認定会) ・心理検査	・自立支援計画票 ・自立支援効果表(外出許可証認定会) ・心理検査	・訪問、面接等による評価 ・課題の再認識	
分教室の支援	・学力の把握	・基礎学力の定着	・基礎学力の定着 ・学習意欲の向上	・進路(復学、進学、就職)準備	・原籍校、進学・就職先との連携	
処遇の内容	○児童の課題整理 ・非行事実の確認 ・入所事由(課題)の確認 ・家族への想い、将来の希望 ・性課題の確認 ○家族の課題整理 ・入所事由の確認(非行事実、児相の説明) ・問題行動の背景(児童の問題、家族の問題) ○応援会議(入所後1ヶ月) ・児童、保護者への励まし、課題の再確認 ○自立支援計画の策定(2ヶ月目の初回カンファ)。4者(原籍、児相、学園、分教)同席し「課題と見直し」を確認し、児童と保護者へ説明	○児童の課題改善 ・寮生活で指導(GW、課題整理プログラム) ・作業指導、スポーツ、学習 ・分教室 ○家族の課題改善 ・毎月の面会(状況説明) ・家族課題の確認 ○応援会議 ・課題への取り組み評価、励まし ○児相との連携 ・状況報告書(協力依頼) ○自立支援計画表の見直し(概ね7ヶ月目) *課題整理プログラムは、児童の課題の再確認等を目的とした個別指導	○児童の課題改善 ・寮生活で指導(GWなど) ・課題整理プログラム(退園に向けた課題整理:2～3日の個別指導) ・分教～原籍校との情報交換 ○家族の課題改善 ・毎月の面会(指導状況説明) ・一時帰省 ○応援会議 ・課題への取り組み評価、励まし ○児相との連携 ・進路(退園)検討 *課題整理プログラムは、児童の課題の再確認等を目的とした個別指導	○児童の課題改善 ・退園アンケート(振り返り) ○退園準備(家族支援担当) ・退園後の生活設計(携帯等) ・自己課題対応SST ○家族の課題改善 ・家族課題の確認 ・親子関係の確認(ゲストハウス) ・一時帰省(親子関係、地域関係確認) ○応援会議(親子) ・成長、変化の評価、将来目標への励まし ○児相との連携 ・六者(児童、保護者、原籍校、児相、学園、分教)会議を行い、家庭復帰の準備を行う ・地域連携(要対協) ○自立支援計画表の見直し(概ね12ヶ月目)	○事後指導(家族支援担当) ・定期連絡 ・家庭(学校)訪問 ・ショートステイ等 ○児童の課題改善 ・原籍校との連携	
心理学的アプローチ	○医学的、心理学的所見の確認 ○児童の課題、非行事実確認等 ○心理学的個別・集団プログラムの実施 ○状況報告書への医学的、心理学的所見記入	○支援計画票作成助言等 ○心理学的個別・集団プログラムの実施 ○状況報告書への医学的、心理学的所見記入	○支援計画票作成助言等 ○心理学的個別・集団プログラムの実施 ○状況報告書への医学的、心理学的所見記入	○支援計画票作成助言等 ○心理学的個別・集団プログラムの実施 ○状況報告書への医学的、心理学的所見記入		
逸脱行動への対応	○担当面接等による個別指導 ○生活指導委員会での各種制限(登校制限を含む)を伴う個別指導、懲戒処分による外出・帰省等の制限 ○安全部会による調査、助言等 ○逸脱行動の場合は、家庭、児相等への連絡				○関係機関との連携 ○再入園(入所又は通所)	
主要業務	○「児童自立支援計画」の作成(具体的支援目標及び方法等) ○家庭環境調査(家庭訪問) ○応援会議(児童、保護者) ○4者協議(処遇の見直し説明)	○「児童自立支援計画」の見直し(再評価) ○応援会議(児童、保護者)	○「児童自立支援計画」の見直し(再評価)、退所時期の検討 ○受入れ調査(家庭・学校等) ○応援会議(児童、保護者)	○退所時期の確定 ○進路決定(分教室と連携) ○4者協議(処遇の見直し説明) ○アフターケア計画票作成	○児相、地域、学園による役割分担	

(摘要) 自立目標は、個別自立支援計画において、個々の児童の状況に応じて、段階的に到達目標を設定する。なお、当プログラムは通所児童にも適用する。